

一 般（個 人）質 問 通 告 一 覧 表

令和 7 年第 5 回笠岡市議会定例会

1 2 月 4 日・5 日・8 日（3 日間）

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 村上 太志	1 未婚化対策 及び若年層の 結婚・定住支 援について	<p>本市では、第 2 子以降の保育料無償化や、来年度からの高校生までの医療費無償化など、出産・子育て・教育に関する支援が着実に整備されつつあり、将来に希望を持てる施策が進んでいると考えていますが、一方で、将来に向けた入口とも言える“未婚から既婚への移行段階”への支援についても、同様に検討を進める必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>結婚を望む誰もが、一步を踏み出しやすい環境づくりを行うことは、現代の価値観にも沿いながら、結果的に地域の活力向上にもつながるものと考え、以下、お尋ねします。</p> <p>（1）本市における生涯未婚率の現状、近年の推移、また、市としてどのような課題として捉えていますか。</p> <p>（2）本市で現在取り組まれている、出会い支援や未婚化対策の施策についてお示ください。</p>	市 長
	2 子供の安全 確保と、教 育・保育現場 で働く職員の 安心につな がる環境整備 について	<p>日本版 D B S は、①子どもの安全確保、②教育・保育現場に対する信頼の確保、③現場で働く職員が不当な疑いから守られるという、3 つの意義を持つ制度です。</p> <p>こうした国の制度整備を踏まえ、本市としても現状の把握、安全対策、そしてガイドライン整備を進めることが不可欠と考え、子供の安全と職員の安心の確保に向け、以下お尋ねします。</p> <p>（1）本市の教育・保育現場において、過去から現在までの間に、児童生徒や園児に対する不適切行為・性加害により教職員等が処</p>	市 長

		<p>分された事案を把握していますか。</p> <p>(2) こども家庭庁は、子供の安全確保の観点から、学校や保育所等への防犯カメラ設置を推奨しております。</p> <p>本市の学校・保育所・放課後児童クラブ等における設置状況、今後の整備方針について、見解をお示してください。</p> <p>(3) 本市においては、教職員・保育士等が職務において私物のスマートフォンやデジタルカメラ等を使用する際のルール、また児童生徒とのSNSを通じた連絡に関するガイドライン等が、具体的に定められていますか。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p>
2 加藤 義久	1 笠岡市立小・中学校の学校規模適正化計画の進捗状況について	<p>本市では、令和7年4月改訂の「笠岡市立小・中学校の学校規模適正化計画」に沿って、市民との対話を重ねつつ、市内の小・中学校の統合へ向けた準備が進められています。</p> <p>まず令和9年4月陶山小学校を城見小学校へ、吉田小学校と新山小学校を統合する計画であり、その進捗状況について、以下、お尋ねします。</p> <p>(1) 具体的な動きとして、両地区の統合へ向けた準備のため、「統合準備委員会」を設置したことは承知していますが、その概要(組織、メンバー、開催頻度等)をお聞かせください。</p> <p>(2) 両地区で第1回目の「統合準備委員会」が開催されたことは承知していますが、何か問題点はありましたか。</p> <p>(3) 準備内容(事柄)によって「関係部会」を設置して、部会としての総意を協議決定していくと聞いていますが、両地区において部会は開催されましたか、また何か問題点はありましたか。</p>	<p>教育長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>

		<p>(4) 両地区の地元関係者から聞いている懸案事項の中で特に気になっている点は、通学方法と通学路の安全問題です。具体的には、スクールバスのルートや乗降場に関すること、また通学路の危険箇所への縁石やガードパイプの設置及び見守りに関することです。これらの対応についてお聞かせください。</p>	教育長
	2 ネーミング ライツパート ナー募集の進 捗状況につい て	<p>本市では、新たな財源を確保し施設運営の安定化を図るとともに、施設の魅力を高め、地域の活性化を図ることを目的として、市が所有する9施設にネーミングライツ(命名権)を導入し、契約を結ぶ法人や団体を募集していますが、その進捗状況についてお尋ねします。</p> <p>(1) 申込期限が11月28日となっていました が、何件の申込みがありましたか。</p> <p>(2) 継続して取り組みますか。その場合、何 か工夫されますか。</p>	関係部長
	3 カブトガニ の「ゆるキャ ラ」を活用し た広報・観光 宣伝について	<p>本市では、様々な冊子やリーフレット、ガイドマップ、SNSを駆使して市の広報や観光宣伝を展開しています。</p> <p>また、各地へ出向き観光イベントや物産展を行っています。その効果アップのため、市のシンボルであるカブトガニの「ゆるキャラ(カブニ、カブ海、カブ希、カブ望)」を活用すべきであると考えます。</p> <p>以下、お尋ねします。</p> <p>(例) 熊本県「くまモン」、彦根市「ひこにゃん」、井原市「でんちゅうくん」、矢掛町「やかっぱー」</p> <p>(1) 現在「ゆるキャラ」の活用はありますか。</p> <p>(2) 本市で作成する冊子やリーフレット等のワンポイントとして、「ゆるキャラ」のイラストを活用してはいかがでしょうか。</p>	<p>〃</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>

		(3) 観光イベントや観光物産展を盛り上げるためにも、「ゆるキャラ」の着ぐるみを参画させてはいかがでしょうか。	関係部長
3 真鍋 陽子	1 新病院建設事業の見直しについて	<p>(1) 令和7年11月20日全員協議会にて笠岡市民病院の建て替え計画を見直しするとの報告があった。</p> <p>市民からの主な反応を訪ねる。</p> <p>(2) 市民病院は地方自治体が運営する公的医療機関として、地域住民の健康と生活を支え「公共の福祉」を実現するべく、採算性だけでは提供が困難な「政策医療」を担わなければならない。</p> <p>現在、笠岡市民病院はどのような政策医療を提供しているのか。また、今後求められる政策医療とは何かを尋ねる。</p> <p>(3) 市が収支計画の検証を依頼した医療経営コンサルタントからはコミュニティホスピタル志向推進の提案があったが、推進に必要な常勤医の採用は見通しが立っていない状況だ。一方で社会福祉士や理学療法士などは可能とのことである。</p> <p>必要に応じて作業療法士や言語聴覚士の採用については可能かを尋ねる。</p> <p>(4) 健康づくりの機運醸成やヘルスリテラシーの向上への取組を積極的に行うことを通じて、病気になる前の段階からの未病予防を積極的に行うことは可能かを尋ねる。</p>	市 長 〃 関係部長
	2 学校教育について	<p>(1) 日本臨床環境医学会と室内環境学会が全国約1万人の子供を対象に行った香害の実態調査によれば、約10%が香害で体調不良を感じたことがあり、約2%はそのため不登校傾向にあることがわかっている。</p> <p>笠岡市内において、化学物質過敏症のため登校できなくなった児童生徒はいるのか</p>	市 長 教育長

		<p>を尋ねる。</p> <p>(2) 市立小学校・中学校における香害及び化学物質過敏症に関するアンケート調査を行うことは可能かを尋ねる。</p> <p>(3) 多層指導モデルM I Mは日本の学校現場で近年導入が進んでいる読み書き困難の早期発見・早期支援のための教育モデルであり、本市においても既に導入されているが、各学校における活用実態には濃淡がある。この現状を教育委員会としてどのように捉えているのか。</p> <p>(4) 読み書きのつまずきを早期に発見するため、就学時検診時にスクーリングを行うことについての所見を尋ねる。</p> <p>(5) 2005年から運用が始まっているネット出席制度の笠岡市内における周知方法及び現在活用している生徒の数を尋ねる。</p> <p>(6) 保護者等負担で購入していた教材の学校備品化などに取り組むことで、学校における補助教材及び学用品などに係る保護者等負担の軽減ができないかを尋ねる。</p>	<p>教育長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p>
4 山本 聡	1 まちづくりについて	<p>県庁通りとうたわれる、貫閲講堂を背にした小田県庁跡から笠岡駅までの道路は笠岡市街の背骨であり、区画整理後の町並みとはいえ、名跡、古刹が点在する門前町の風情をいまだ残している。また、旧市街のシンボルである多宝塔及びイチョウの木も高層の市営住宅ビルに隠れてしまい、印象に薄い。</p> <p>以上の観点より、以下尋ねる。</p> <p>(1) 庁舎建て替え時に、駅前までの区間を公園として扱い、人が集い、商店が栄えるまちづくりにしてはどうか。</p> <p>(2) 駅の南口を活用し、バス、タクシーの発着場としてはどうか。</p>	<p>市長</p> <p>関係部長</p>

2 地域医療について	(3) 中央町の市営住宅(8階建て)を移設し、多宝塔、イチョウの木を観光資源として活用できないか。	関係部長
	(4) 貫閲講堂は耐震補強を施し、庁舎あるいは小学校の施設として活用できないか。	市長
	新病院建設に向けて地域の医療事情を踏まえながら、総務省による「新公立病院改革ガイドライン」及び厚生労働省による「地域医療構想策定ガイドライン」による本市における医療体制の在り方を尋ねる。	
	(1) 笠岡市民病院における建て替え事情を前提に、今後、本市の新病院としての機能はどのようなものか。また、地域連携の在り方はどのようなものか。	市長
	(2) 医師不足、看護師不足と言われている中、有識者会議でも医師の派遣は難しいとの言質があり、また先般のコンサルティング報告で指摘のあった、“医師の確保が前提”との答申は新病院建設における最大ネックではないか。	病院事業管理者
	(3) 玉野市では地元病院を併合し、医療センターとして再出発した。 玉野市における医療センター建設までの経緯と今後の玉野市における医療センター運営の見通しに基づき、例えば“笠岡(西部)医療センター”の建設の可能性について、どのような見解をお持ちか。	市長
	(4) 病院の運営形態、公設民営、独立行政法人化、指定管理者など事業形態の見直しなどの可能性はあるか。	〃
	(5) 病院機能の適切な再編成とともに、ICTを活用した(島しょ部)医療機関連携に取り組むことは、若い医師の確保などにつながり、包括ケアと連動した今後の地域医療	病院事業管理者

		<p>の在り方に資するものではないか。</p> <p>本市として取り組む考えがあるか。</p>	
5 齋藤 一信	1 学校体育館 への空調設備 整備について	<p>(1) 令和4年に本市教育委員会が示した「授業頻度が低い」「建物構造上難しい」「普通教室の更新が優先」との見解を踏まえた上で、近年の熱中症リスクの高まりや避難所環境整備の必要性の観点から、市として現状認識の変化があるか伺います。</p> <p>(2) 国が進める学校体育館空調整備の方針及び補助制度拡充を踏まえ、本市の学校体育館における空調整備の現状と課題を伺います。</p> <p>(3) 災害時の避難環境・熱中症対策・子供たちの健康確保の観点から、学校体育館への空調設置の早期実現について、具体的な検討方針を伺います。</p>	<p>教育長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	2 難聴で困らない社会の実現について	<p>(1) 市内における高齢者を中心とした難聴の実態と、現在の支援環境について伺います。</p> <p>(2) 市役所・町役場窓口に軟骨伝導イヤホン等の聞こえ支援機器を設置する動きが進んでいます。</p> <p>本市役所窓口における同様の機器設置の検討について伺います。</p> <p>(3) 窓口サービスの向上に加え、国による軟骨伝導支援の動きや県内先行自治体の取組を踏まえ、本市として今後どのように「難聴で困らない社会」の実現を進めていくのか、方針を伺います。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	3 市民病院建設について	<p>(1) 市が予定する有識者会議の検討事項のうち、「病院の適正規模」について、市自らが最終責任を負う立場としてどう基本認識を持ち、どのような方針で臨むのか伺います。</p> <p>(2) 建設後の持続可能な運営のために、医師・看護師等の人材確保に関する数値目標</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p>

		<p>とロードマップを示す考えがあるか伺います。</p> <p>(3) 人口減少・人件費高騰・診療報酬改定等を踏まえた、中長期の財政シミュレーションを提示する考えについて伺います。</p> <p>(4) 建設を実現させるために、市として定義すべき前提条件について伺います。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p>
6 西山 博行	1 笠岡市の未来を拓く「中高生の居場所」の整備について	<p>(1) 本市においては、乳幼児支援や不登校対策など、具体的な困難を抱える児童生徒への「課題解決型」の施策は重点的に進められている一方で、中高生が費用を気にせず、学校や家以外で安心して過ごせる場所、いわゆる「サードプレイス」の整備が取り残されてはいないでしょうか。</p> <p>「第3期笠岡市子ども・子育て支援事業計画」が策定されていますが、こうした「中高生の一般的な居場所(サードプレイス)」の必要性をどのように認識し、施策としてどのように位置づける方針なのか、基本認識を伺います。</p> <p>(2) 福山市の「STU i l y (スタイリィ)」は、店舗や会議室の空きスペースを中高生に無料開放するもので、民間の活力を利用することで行政コストを抑えつつ、街全体を「居場所」にする優れた「分散型・官民連携モデル」です。</p> <p>本市においても、駅周辺の空き店舗や稼働率の低い公共施設を活用し、県の「子どもの居場所づくり促進事業」などの補助金や民間連携を視野に入れば、「居場所」の早期導入が可能と考えますが、こうした既存ストックを活用した仕組みの導入について、調査・研究及び実施に向けた市の見解を伺います。</p>	<p>市 長</p> <p>関係部長</p>

	<p>2 笠岡市地域おこし協力隊の支援体制について</p>	<p>(1) 採用のミスマッチを防ぐためには、単なる面接だけでなく、任期中の「3年間の活動計画」や具体的な企画提案の提出を求めるとともに、選考委員には市職員だけでなく、地域社会の課題解決や活性化に取り組む中間支援組織の方を加えるなど、提案の実現可能性を客観的に評価する仕組みが必要だと考えますが、本市で活動したいという熱意ある応募者に対し、本市としてどのような基準で採用・不採用を決定しているのか、隊員に期待する役割を含めて見解を伺います。</p> <p>(2) 地域と関わり続ける元隊員は、本市にとって大きな資産と言えますが、その役割を継続するには、まず隊員自身が地域で生計を立てる「経済的自立」が不可欠です。</p> <p>現在のコーディネーターによる支援に加え、自らのスキルを収益に変える「ビジネスの手法」を学ぶ機会が必要ではないでしょうか。</p> <p>任期中に経営感覚やマーケティング等のノウハウを体系的に習得し、どのような進路であっても通用する実務的な「稼ぐ力」を養う支援体制を強化すべきと考えますが、市の見解を伺います。</p>	<p>市 長</p> <p>関係部長</p>
	<p>3 小規模多機能自治の進捗について</p>	<p>令和7年6月定例会において、本市は持続可能な地域社会の構築に向け「小規模多機能自治」を進めていく旨の答弁をされましたが、答弁から半年が経過しても、目に見える形での具体的な進展が確認できません。</p> <p>現在、「小規模多機能自治」の導入に向け、庁内ではどのような検討組織で、どのような議論がなされ、今後どう進めていく予定なのか、現在の検討状況を具体的にお示しください。</p>	<p>市 長</p>

7 井木 守	<p>1 災害時のトイレ対策について</p> <p>2 笠岡市の公共交通政策について</p>	<p>阪神・淡路大震災や能登半島地震に際して、繰り返し指摘されているのがトイレ対策です。</p> <p>水や食料はしばらく我慢できても、トイレはそうはいきません。</p> <p>備えが大切だと指摘されています。</p> <p>以下、本市の対策と準備状況について質問します。</p> <p>(1) 本市の上水道・下水道の耐震化の進捗状況はどのようになっていますか。</p> <p>(2) 水洗トイレは、地震等の災害には脆弱と指摘されています。断水時のトイレ対策について検討していますか。</p> <p>(3) マンホールトイレや移動式のトイレなどの検討はどのようになっていますか。</p> <p>(4) 和式のトイレは、高齢者にとって利用しにくいとの指摘があります。避難所等に指定されている施設におけるトイレの洋式化の進捗状況はどのようになっていますか。</p> <p>(5) 公共施設、公衆トイレ等の洋式化を計画的に進める必要があると思いますが、本市の計画をお示してください。</p> <p>(6) 災害時のトイレ対策の統括責任はどこの部署の誰が担っているのでしょうか。</p> <p>公共交通政策は、栗尾市長の重点政策の1つであったと思いますが、運転手不足等で尾坂線、大島線のデマンドバスが廃止されるなど、公共交通の利便性は悪化していると思います。</p> <p>栗尾市政の2年間で、どのような検討を加えてきたのか、以下、質問します。</p> <p>(1) この2年間、公共交通について「何を」「どのように」具体的に検討してきたのでしょうか。</p> <p>(2) 高齢化が進む中で、ドア to ドアの交通システムが求められていると思いますが、</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市 長</p> <p>〃</p>
--------	--	---	--

		<p>そのような検討はされていますか。</p> <p>(3) ドア to ドアの交通システムは、本市においては、現在、高齢者タクシーチケット助成事業補助金と社会福祉協議会が行っている「チアサポート(つきそい)」事業の2つだと思いますが、これらの取組との整合性や今後の方向性について、どう検討していますか。</p> <p>(4) 高齢者タクシーチケット助成事業補助金で、市民の方から「利用枚数の上限をなくしてほしい」との御意見をいただきますが、見直す考えはありますか。</p> <p>今後、マイナンバーカードの利用が、市の行政サービス等で拡大するであろうことは否めないと思いますが、一方で、マイナンバーカードを所持していない、あるいは持ちたくないという市民も一定数おられると思います。</p> <p>以下、質問します。</p> <p>(1) 本市として、今後マイナンバーカードを行政サービス等でどう利活用しようと考えていますか。</p> <p>(2) カードを所持していない、あるいは持ちたくないという市民への対応等はどのように考えていますか。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>市 長</p> <p>〃</p>
8 薮田 誠二郎	1 笠岡市の「観光」について	<p>本市では財政健全化プランを進める上で、限られた予算の中で「選択と集中」を意識し、事業を進めています。</p> <p>「お金を生み出す」という観点において、本市の観光は市民も大きな期待をしているものでもあります。</p> <p>以下、お尋ねします。</p> <p>(1) 本市ではどのような観光戦略を持っているのでしょうか。「選択と集中」という観点からもお聞かせください。</p>	<p>市 長</p>

		<p>(2) 道の駅笠岡ベイファームにおいて、夜間の迷惑行為に対する追加対策の実施を行っています。どのような状況でしょうか。本市としてできること、また、今回のことを通じて、市民や関心を持ってくれる方たちにどのようなメッセージを届けられるでしょうか。</p>	市 長
		<p>(3) 令和8年度に一般国道2号笠岡バイパスの開通を控え、市民も利便性と観光において期待をしています。道の駅笠岡ベイファームの施設拡張事業は今現在凍結中ですが、今後はどのような動きになるでしょうか。</p>	関係部長
		<p>(4) 本市における外国人観光客も含めた観光は、笠岡諸島をはじめとした地域ならではの体験旅行が多くなっています。そうした観光客に向けたサービスはどのようなものがあるでしょうか。</p>	〃
		<p>(5) AIプラットフォーム「T o y T a l k (トイトーク)」というものがあります。多言語に対応でき、無料で運用ができるもので、岡山県が連携協定を締結しています。本市でも積極的な活用はできないでしょうか。</p>	〃
		<p>(6) T o y T a l kは観光やイベントだけではなく、カブトガニ博物館や竹橋美術館、庁舎・施設窓口のナビゲーションなど様々な分野での活用が考えられます。外国の方たちや障害を持った方たちの対応にも有効であり、窓口に来られる前に、T o y T a l kで対応することも可能です。財政健全化プランを行う本市において、限られた予算の中で、無料、また低予算で導入ができるT o y T a l kについて、本市の見解をお示してください。</p>	〃

9 宮崎 秀夫	1 若者の薬物・オーバードーズ問題について	<p>(1) 本市として、若年層の大麻や危険ドラッグ、そして市販薬オーバードーズが笠岡でも起こり得る現実的なリスクであることを前提に、その状況を把握する体制は、現時点で十分に整っているか尋ねる。</p> <p>(2) 薬物や市販薬オーバードーズから子供たちを守るための、予防教育・啓発と相談・支援体制が、現時点で十分に整っているか尋ねる。</p>	関係部長
			〃
	2 学校給食無償化に伴う質の確保について	<p>(1) 無償化や物価高があっても、学校給食の一定以上の質を守ることを“続けていくべきだ”というお考えかどうか尋ねる。</p> <p>(2) 国の制度が具体化・開始されるまで、そして開始後も、給食の質をこれまでどおり、より良い形で保っていくために、本市としてどのような財源確保と運営方針を考えているのか尋ねる。</p> <p>(3) 給食の質を保つための目安となる“指標”や“最低限守るべき基準”をできる範囲で明確にし、点検・共有していく仕組みを整えられないか尋ねる。</p> <p>(4) PFI 契約の下でも、献立や食材の質向上、地産地消の拡大、アレルギー対応や衛生管理の強化など、必要な改善を柔軟に進められる運用になっているか尋ねる。</p>	市長
			関係部長
10 守屋 基範	1 笠岡駅前周辺の活性化について	<p>(1) 財政健全化に伴い凍結しているJR笠岡駅の橋上化等を含めた駅前の整備のプランと今後の動向についてお尋ねします。</p> <p>(2) 商店街振興を中心とした駅前の賑わい創出についてお尋ねします。</p> <p>(3) 商店街振興基金の位置づけと今後の運用についてお尋ねします。</p> <p>(4) 駅前の賑わい創出のために官民一体の取組が必要と考えますが、商店街・まちづく</p>	市長
			〃
			関係部長
			市長

		り団体・企業等有志による「まちづくり社会」のような取組を進める必要があると考えますが、本市の見解をお尋ねします。	
	2 地域づくり 人材の育成について	<p>(1) 現在、まちづくり協議会を中心に行われている活動に地域差があると思われますが、その地域差はどこから来ると考えていますか。</p> <p>(2) 各地域でまちづくり協議会を中心に地域活動が展開されています。現時点で次代を担う人材が不足していると考えますが、方策は検討していますか。</p> <p>(3) 地域人材づくりと並行して人材育成を行うコーディネーターが必要だと思っています。解決策として地域おこし協力隊制度を活用し、本市で3年間コーディネーターを協力隊として育成する中で、その後集落支援員として継続雇用というスキームが考えられますが、本市の見解をお尋ねします。</p>	<p>市 長</p> <p>関係部長</p> <p>市 長</p>
	3 関係人口の 創出について	<p>(1) 市長は、移住施策は人の取り合いであって、今住んでいる人のサービス向上が必要とおっしゃっていましたが、これまでの具体的な住民へのサービスやこれからの地方創生についてどうお考えかお尋ねします。</p> <p>(2) 関係人口づくりのための具体的な施策として、地域おこし協力隊のインターン制度の活用により、本市に興味・関心がある学生・社会人の受け入れを積極的に展開してはどうでしょうか。特に、地域やNPOへの展開が必要ではないかと考えますが、本市の見解をお尋ねします。</p>	<p>市 長</p> <p>関係部長</p>